

棚底城跡が天草市初の「国指定史跡」になりました

国の文化審議会は、5月に倉岳町に所在する中世城跡『棚底城跡』ほか12遺跡を史跡とするよう文部科学大臣に答申し、7月23日、官報に告示され棚底城跡が天草市初の国指定史跡となりました。

今回、国指定文化財や棚底城の歴史などについてお知らせします。

空から見た棚底城跡(点線が城域)

国指定史跡とは

棚底城跡は、旧倉岳町時から調査研究が行なわれており、史跡指定の申請業務は天草市へ引き継ぎ進められてきました。

文化財保護法に基づく文化財には数多くの種類があり、右の体系図のように分類されています。棚底城跡は、記念物の中の『史跡』に指定されました。史跡は市では初、天草地域では苓北町の『富岡吉利支丹供養碑』について2例目となります。

◆文化財保護法に基づく文化財種類体系図



棚底城跡の歴史

棚底城跡は、天草で最も高い山、倉岳からのびる尾根筋の先端に築かれた戦国時代の山城です。歴史上の記録は、とても少なく、わずかに『八代日記』という書物に残るのみです。

戦国時代の天草諸島は、一般に『天草五人衆』と呼ばれる領主たちがそれぞれの地域を支配し、島内で抗争と和平を繰り返していました。

棚底城跡が初めて記録に現れる

発掘によりわかった歴史

記録的に少なく、さほど注目されていなかった棚底城跡ですが、倉岳町誌編さんの一環で始めた発掘調査により、状況がガラリと変わりました。城の中枢と目された1郭(※郭：建物や柵などを設置するための区画。近世城では「丸」という。)の試し掘りで、岩盤に掘り込まれた柱穴が多数見つかりました。立派な城主館が何度も立て替えられたことがわかったの

です。また、たくさん輸入陶磁器も出土しました。室町時代の城主の多くは、普段は城のふもとの居館に暮らし、いざ戦争となったら山城にこもって戦い、終わればまた館に戻る、そんな生活をしてたとされます。ですから、山城からは簡素な建物跡と少量の遺物しか見つからないことが少なくありません。

のは、1544年で、当時、城は上津浦氏の一族の居城でした。その後、1556年ごろには栖本氏の所領になっていたようです。上津浦氏はどうしても棚底城が必要だったので、幾度も城を奪い返そうと攻撃を繰り返しました。結局、力では落とせなかったのか、球磨地方の大勢力である相良氏の仲介により、1560年に棚底城は再び上津浦氏の城になっています。